

# 平成29年度 障害者団体等ヒアリングの結果（まとめ）

障害者団体等ヒアリング日程表		平成29年10月10日現在
実施日	団体名	団体等の表記
9月13日	高次脳機能障がい者の会「メビウスのWA」	障害者団体
9月14日	国分寺市聴覚障害者協会	障害者団体
9月15日	「発達障害者の親」の会 なのはな会	障害者団体
9月15日	障害児通所支援事業所（市内・市外 計14事業所）	障害児通所支援事業者（市内・市外）
9月22日	障害者地域自立支援協議会(相談支援部会)	相談支援部会
9月25日	国分寺障害者団体連絡協議会 ・国分寺市身体障害者福祉協会 ・国分寺市手をつなぐ親の会 ・国分寺あゆみ会 ・国分寺難病の会	障害者団体
9月28日	在宅療養を支える会	在宅療養を支える会

# 平成29年度 障害者団体等ヒアリングの結果（まとめ）

項番	項目	地域課題に係る意見の概要	団体名
1	相談支援	①相談支援専門員が多忙で、連絡がこないところが多い。対象者のことを思うと、一緒に一人ひとりの生活を考えてもらいたい。 ②計画相談支援員不足を感じる。高次脳機能障害等は特に別枠で受けてほしい。	①障害児通所支援事業者（市内） ②障害者団体
2		①相談支援専門員の一定の質を担保する研修をしてほしい。また、医療や障害当事者団体等、社会資源の情報を把握してほしい。 ②相談支援専門員が足りてないと感じるし、レベルを担保してもらいたい。	①障害者団体 ②障害児通所支援事業者（市内）
3		精神疾患の方の相談を受ける相談員の質を向上してほしい。	障害者団体
4		精神保健相談では、単なる事業所の紹介ではなく、生活環境の改善、医療へのつなぎを丁寧に進めてほしい。また、心の健康相談事業の評価をしてほしい。	障害者団体
5		精神疾患未治療者の相談は、家族相談も含めて丁寧に対応してほしい。	障害者団体
6		サービス利用につながらない、計画相談未利用者の相談をきちんと受けてほしい。また、こうした相談先として、家族会を周知してほしい。	障害者団体
7		障害児支援利用計画をみると、重症心身障害児についてあまりわかっていないことがある。	障害児通所支援事業者（市外）
8		自治体によって、計画相談の利用計画で求められる資料が異なる。良質な計画にしたいがこの点が課題である。	障害児通所支援事業者（市内）
9		相談支援事業所ごとの特色や強みを生かして選択できると良い。事業所の情報をどう提供するかは今後の課題。	障害児通所支援事業者（市内）
10		相談支援専門員がいっぱいに対応できない現状ではワンストップが難しい。受けられなくても他事業所の受け入れ調整等の情報共有できるとよい。	相談支援部会
11		サービス利用希望者に対し、まずは計画相談が入り、本人が生きるための計画をたててからサービスを考える事業所探しするのが本来の動きだと思う。	相談支援部会
12		新規サービス利用希望者に対し、利用の流れを説明する媒体等や丁寧な周知が必要ではないか。	相談支援部会

項番	項目	地域課題に係る意見の概要	団体名	
13	相談支援	介護保険サービスと障害福祉サービスを使う場合、当事者もケアマネも事業所も迷う。包括だけでは力が足りず、基幹相談支援センターや行政に相談しながら進めたい。	相談支援部会	
14		相談を受けた方が、複数の支援体制にきちんとつなぎ、その後どうなったかを検証してほしい。	障害者団体	
15		①ライフステージに沿った切れ目ない相談支援体制を作ってほしい。相談支援をバックアップする部署を設置してほしい。 ②障害者の後ろに家族がいて、家族全体の問題となる。なかでも発達障害は、育てづらさから始まり、生きづらさまで生涯続くものなので、子供から成人まで支援を切ってくるのではなく、継続した支援をしてもらいたい。	①障害者団体 ②障害者団体	
16		1度でも相談があって、どこにもつながっていない人には、年1回でもコンタクトをとってほしい。	障害者団体	
17		窓口に来ることの限界があるので、多職種によるアウトリーチを進めてほしい。	障害者団体	
18		発達障害のある人には、自分から相談するという発想がない人もいる。空気が読めないのではなく、むしろ深読みしてしまって、ここは自分が行っては申し訳ないとか、そういう発想や過剰な付度をしてしまい動けない人もいる。	障害者団体	
19		障害児支援	放課後等デイサービスができてから、とりあえず学童代わりに使うという風潮がある。親がどこまで子育てに関わるかという認識が欠如していると思う。	障害児通所支援事業者 (市内)
20			乳幼児健康健診など様々な機会を活用し、子どもの発達についての相談しやすい環境をつくり、必要に応じて療育へつなげる仕組みの充実が必要。	障害児通所支援事業者 (市内)
21	子どもの課題が見えた時に保護者がネットで情報収集することが増えるなか、適切な支援を受けられるよう、必要な情報を提供できる体制を整えてもらいたい。		障害児通所支援事業者 (市内)	
22	乳幼児健診後、定期的に追跡・フォローし、必要に応じて療育につなげることが大事。		障害児通所支援事業者 (市内)	
23	家庭での育児が充実するよう、事業所での療育の内容を保護者と共有したい。		障害児通所支援事業者 (市内)	
24	医療的ケア児はマンパワーの問題でなかなか引き受けられない。医療職が集まらないので厳しい。		在宅療養を支える会	
25	医療的ケア児は数も少なく、事業を成り立たせるのも大変ではないか。		在宅療養を支える会	
26	今は昔よりも格段に発達障害のニーズが増えている。早期発見・早期療育は大切なので、そこに力をいれてもらいたいと思う。		障害者団体	

項番	項目	地域課題に係る意見の概要	団体名
27	教育	高校卒業後の進路に不安を持っている親が多い。	障害児通所支援事業者 (市内)
28		学校と事業所での情報共有，連携の機会が増えるとよい。	障害児通所支援事業者 (市内)
29		関係者会議等により課題や支援方法等について共有するなど，福祉と教育の連携が大切。	障害児通所支援事業者 (市外)
30		保護者の都合ではなく障害児本人に最善の利益が図られるよう，相談支援専門員の適切なケアマネジメントが必要。	障害児通所支援事業者 (市外)
31		国分寺市に関しては比較的事業所と学校との連携は取りやすい。ケース会議でも校長先生をはじめ理解のある方が多いなと感じる。青年期までのシームレスな支援ができるといい。	障害児通所支援事業者 (市内)
32		学校教育の現場において高次脳機能障害への理解や配慮が不足しているため，高次脳機能障害の子どもがいやな思いやいじめを受けることもある。学校のなかでも，障害への理解を深める取組をしてほしい。	障害者団体
33		国分寺市の教育委員会から障害者施策推進協議会に委員を出して，教育と福祉とで連携をしていただきたい	障害者団体
34		連携を進めるには，福祉と教育双方がそれぞれの制度やサービスについて学び合い理解を深め合うことが重要。	相談支援部会
35		発達障害が多いが，早期発見しても保護者の理解や受容の難しさから早期療育につながらないので，事前の教育が重要。保護者向けの教育の場を設けてはどうか。	在宅療養を支える会
36	活動・学習等の場の整備	学校卒業後の仕事以外の余暇を過ごせる場所のニーズは高まっていく。	障害児通所支援事業者 (市内)
37		発達障害者の地域活動支援で，発達障害のある人がスタッフになり当事者同士によるサポートが行われている事業が他自治体であり，良い取組だと思う。	障害者団体
38		国分寺市の障害者センターという名前はハードルが高く感じるので，発想を変えた取組が必要。	障害者団体
39	働くことへの支援	親なき後の自立に向け，学校以外にも就労支援事業所と連携がとれればよいと感じている。	障害児通所支援事業者 (市内)
40		就労支援センターには，様々な障害の特性に応じた，きめ細やかな支援をしてほしい。職員の育成にも力を入れてほしい。	障害者団体

項番	項目	地域課題に係る意見の概要	団体名
41	働くことへの支援	就労支援センターについて、精神障害者への就労支援の質を向上させ、もっと機能してほしい。	障害者団体
42		法定雇用率の目標値に精神障害を入れて、国分寺市の職員として採用してほしい	障害者団体
43		将来は都のチャレンジ雇用みたいなのが市でできればいいと思う。	障害者団体
44	情報提供体制の強化	聴覚障害者の中には、高齢等の理由により文章の読み書きが得意ではない人や筆談器の使用みでは負担を感じる人もいるようである。そのため、たとえば何かの絵があって、それを選んでいくコミュニケーションボードのようなものと、各課に配置している筆談器と併せて活用することも検討してもらえればと思う。	障害者団体
45	移動・社会参加	交通費助成は高次脳機能障害の人にも利用しやすい制度にしてほしい。	障害者団体
46		他の多くの自治体と同様、タクシー券という形で目的を問わない社会参加に対して支援をする交通費助成制度にしてほしい。	障害者団体
47		精神障害、難病も交通費助成の対象にしてほしい。そのための意見交換の場が必要。	障害者団体
48		交通費助成制度の見直しに当たっては、その他関連する制度・施策も含めて、全体の見直しが一度必要である。	障害者団体
49	発達相談・早期療育体制	重症心身障害児や医療的ケア児は、退院する時には医療機関とつながっているが、退院後に福祉サービスの利用方法が分からない人が多いので、相談できる場所等への連絡方法を明確にしてほしい。	障害児通所支援事業者（市外）
50	住まいの整備	高次脳機能障害への理解が遅れているので、理解を深める必要がある。また、高次脳機能障害専門のグループホームを利用できるようにしてもらいたい。	障害者団体
51	安全・安心のまちづくり	災害時に地域の支援者を増やすために、防災安全課と連携を図ってもらいたい。	障害児通所支援事業者（市内）
52		ヘルプマークの更なる周知が必要である。	障害者団体
53		災害時には学校等に避難するが、聴覚障害者は情報が入りにくいのでストレスが溜まると思う。また、公共施設を利用中に災害が起こった際には現在は音声でしか伝えられないと思うが、緊急時には視覚的に伝達してほしい。	障害者団体
54	人材の育成・地域ネットワークづくり	障害者の介護では力が必要になってくるが、男性の方が不足している。	障害者団体
55		未就学児の保護者を支援するためには、保護者同志の連携が必要なので、仲間づくりの場所を確保したい。	障害児通所支援事業者（市外）

項番	項目	地域課題に係る意見の概要	団体名
56	人材の育成・ 地域ネット ワークづくり	障害児通所支援事業所同士の連携が少ないので、情報交換会などが必要である。	障害児通所支援事業者 (市内)
57		人材育成のための研修が重要である。	障害児通所支援事業者 (市外)
58		人材の確保が重要だが難しい。	障害児通所支援事業者 (市内)
59		医療的ケアのある人の行き場が不足している。看護師の人材の確保が課題。	在宅療養を支える会
60		人材確保のためには、条件整備（待遇面も含む）が必要である。	相談支援部会
61		障害者団体の安定した活動の場所の確保への支援に力を入れてほしい。	障害者団体
62		関係者間での顔の見える関係が大切。皆が顔見知りであると、困りごとなどを相談しやすくなる。	障害者団体
63	権利擁護 指導監査	施設での虐待が多いと聞くので、虐待防止に向け、市と施設が協力して虐待防止対策を講じてもらいたい。また、近隣市の社会福祉法人で立ち入り検査を自分達で実施しているところもあると聞くので、指導を行ってほしい。	障害者団体
64	権利擁護	窓口対応については、障害特性に配慮した丁寧な対応をお願いしたい。	障害者団体
65		精神に障害のある人や難病者を断る高齢者福祉施設があるとのことなので、市で指導してほしい。	障害者団体
66		成年後見制度の周知を行い、理解を深めてもらいたい。また、後見人への報酬についても改善を検討してほしい。	相談支援部会
67	福祉サービス 等の充実	重症心身障害児、医療的ケア児の支援について、重症心身障害児の枠に入らない障害児への支援策を検討してほしい。	障害児通所支援事業者 (市外)
68		保育所等訪問支援については、必要としている方はいるのだが、今のままでは報酬が低く事業として難しい。	障害児通所支援事業者 (市外)
69		高次脳機能障害者に対する就労支援を行う事業所を増やしてほしい。	障害者団体
70		親亡き後を考えた時、グループホームや入所施設には発達障害のある人は適応しないと考えるが、対象となるサービスがなかなか見つからない。	障害者団体
71		市の手話通訳者の配置について、決まった曜日、時間に市役所へ行くという調整が難しいので、充実してほしい。	障害者団体

項番	項目	地域課題に係る意見の概要	団体名
72	障害と高齢の連携	65歳到達時の障害福祉サービスから介護保険へ切り替わる際は、障害部門と介護部門との連携が重要であり必要。	障害者団体
73		障害ごとに抱える問題が異なり、状態によっては市だけで対応できないこともある。	在宅療養を支える会
74		障害者のいる世帯で親が高齢により認知症が始まってというのが現実にある。個別的に見るのではなく、ひとつの世帯として扱ってバックアップしないと生活が成り立たなくなる。	障害者団体
75	精神含めた包括ケアに向けた関係機関の連携面での課題	学校の教育のなかに精神障害、メンタルヘルスについて盛り込む必要がある。不登校の背後に精神障害があるかもしれない、保護者の認識、理解も深める必要がある。	在宅療養を支える会
76		福祉職と医療職で考え方が違うので、支援方針の共有が必要。	在宅療養を支える会
77		介護と障害の制度で考え方が違うので、相互理解が必要。一家で精神疾患があるケースでの連携は課題。専門性の高い連携、集約の場があるとよい。	在宅療養を支える会